



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療  
先進医療の推進  
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 岡野 友宏  
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二  
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1  
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www10.showa-u.ac.jp/~denthp/index.html>

## 日本の医療と総合診療 —プライマリ・ケアのありかたについて—

総合内科 科長 井上 紳

日本の医科系大学の標榜科は20科近くにわかれているため、患者さんにとってどの科を受診するか、あるいは近隣開業医からの照会先をどの科にするかで問題を生じることがあります。こうした受診先が確定していない患者さんに対して、医学部附属病院に「総合診療室」を設ける例が増えています。一方、これまで日本で重視されていなかった、年齢や専門臓器を超えた「家庭医」の育成も注目されています。その概念の基盤になっているのがプライマリ・ケアで、当院における総合内科もその理念を重視しています。

プライマリ・ケアとは、国民の健康や福祉に関わるあらゆる問題を、総合的に解決して行おうとする、地域での実践活動のことですが、漠然とした概念でなかなか浸透していません。プライマリとは「初期、基本、本来」といった意味ですが、言葉としてはプリマ(主役)からきているとされ、重要なという意味も含んでいます。ケアとは、世話、管理、注意、配慮、といった意味があります。つまり、プライマリ・ケアとは、国民のあらゆる健康、疾病に対し、総合的・継続的に、そして全人的に対応する地域の政策と機能と考えられます。

医療における位置付けですが、患者さんが最初に接する医療の段階であり、それが身近に容易に得られ、適切に診断処置され、また以後の療養の方向について正確な指導が与えられることを重視する概念で、そのために訓練された一般医・家庭医(プライマリ・ケア医師)がその任にあたります。

日本プライマリ・ケア学会は医科開業医のほか、歯科医師、薬剤師、看護職なども会員となっ

ており地域ケアを重視しています。今後予想される日本の超高齢社会における医療提供体制を考えますと、多数の疾病をかかえた高齢患者さんが大学病院を受診した場合、複数の診療科から患者さんに大量の薬が処方され、時に同効薬が重複して投与されていることもあります。また、患者さんも多科にわたる説明の理解は難しく、受診待ちでつかれてしまうといった事態もみられます。患者さんを総合的、継続的に診れば、高齢患者の複雑な疾患に対する的確な診断をつけられ、説明も一貫しており、その上で専門医につないだり、治療の優先順位を決めることができます。

昭和大学歯科病院の総合内科も、歯科各科の要請に応じ、初期治療として診断と治療にあたっています。必要に応じて昭和大学病院に紹介し、検査を依頼しますが、紹介してそれで終わりということではありません。多様な専門科に分かれた昭和大学病院とは異なり、当院総合内科では、プライマリ・ケアにおける5つの理念、すなわち、患者さんとの時間的および空間的「近接性」、診療範囲や治療経過の「包括性」、医科および歯科各科専門医との「協調性」、病気のときも健康なときも「継続性」、インターネットを活用した情報収集と患者さんへ説明する「責任性」、を重視しています。また、これらを実践するためには医療の監査システムや我々自身の生涯教育も必要であると考えています。



## 総合内科 紹介

総合内科では科長の井上と助教の田崎の2名で診療に当たっています。井上は循環器が専門ですが、高血圧疾患、内分泌疾患などを専門にしています。田崎は呼吸器が専門で、喘息やアレルギー疾患、睡眠時無呼吸症候群などが専門です。

当院総合内科で採用した検査機器の一つに脈波伝搬速度計測機があります。血管は弾力性が落ちて硬くなると、脈として感じる血液の伝搬速度が速くなり、これを計測することにより血管年齢がわかる仕組みです。当科では、フクダ電子の脈波計測機を採用しておりますが、その特徴は、血管の弾性係数そのものであるスティフネスパラメータ $\beta$ 法(stiffness parameter  $\beta$ )を提示する心臓足首血管指数(CAVI)を測定するものです。CAVIは血圧に依存しない方法とされ、心臓移植前後でも安定した評価が可能という報告もあり、注目されています。正常は8未満で、8以上9未満は境界、9以上は動脈硬化が疑われます。

高血圧があると、まず脳動脈が狭窄し脳血流が低下することが指摘されています。脈波伝搬速度はその状況をいち早く検索することが可能です。近年、歯周病と動脈硬化の関係が報告されています。人間の血管は加齢とともに弾力性が失われますが、硬化を促進する因子として高血圧や高脂血症、糖尿病があります。一方、動脈硬化の本体である悪玉コレステロールの沈着には、歯周病菌が関与し



ていることが明らかになっています。歯周ポケットが深くなると血液中に侵入する歯周病菌も増加しますが、動脈硬化との関連では歯周病菌が作り出す毒素成分(内毒素)がかかわっている可能性も指摘されています。内毒素は、好中球やマクロファージといった免疫細胞に取り込まれて血液中を運ばれ、血管壁などで炎症性サイトカインの産生を促し、コレステロールの沈着や細胞傷害などを起こすのではないかと考えられています。

とは言え、動脈硬化は齢を重ねて生きる以上、避けては通れない業のようなものです。しかし、高血圧や高脂血症など、生活習慣病を改善し、口腔内環境を改善することで、血管弾力性の低下を遅らせることは可能です。血管年齢の測定に必要な時間は10分ほどです。

総合内科ではこのほか、尿中のNTxという物質を計測することで骨粗鬆症の検査が可能です。この検査は骨を溶解させる破骨細胞の働きを調べるもので、値が35以上では骨粗鬆症の可能性、55以上では骨折の危険性があります。ご希望の患者様は内科受診の手続きをしていただき、外来にてご相談ください。

(総合内科 科長 井上 紳)

### ● CAVI 基準値

CAVI<8.0	正常範囲
8.0≤CAVI<9.0	境界域
9.0≤CAVI	動脈硬化の疑い

## 手術室 紹介

口腔領域の治療を専門とする当病院の中央手術室では手術治療が年々増えており、手術件数は約600~650件/年行われています。看護主任1名、主任補佐1名、看護師2名、准看護師1名のスタッフ構成で行っています。手術室では一人の患者さんに、数名の麻酔医、手術医、看護師がチームとなり行っています。全身麻酔下で手術を受けられる患者さんの大半は2~3日前に入院となりますが、入院生活に馴染みにくい小さいお子さんや、ご家庭の事情等で手術当日に入院されるケースもあります。また、昨今は外来患者さんの手術治療を中央手術室で行うケースも増えており、安心して患者さんに手術治療を受けていただくために病棟をはじめ、各診療現場との連携・情報の共有化が重要と考えています。

現在、高齢社会と言われていますが、当手術室の手術患者さんも同じ傾向にあります。何らかの介護が必要なケースも稀ではありません。身体的介助が必要なケースでは日常生活の慣習や介護の方法を尊重し、通常の介護を可能な限り変えることなく、手術室でも提供できるように配慮しています。そのための「個々の患者さんを先ず知る」ということの情報収集活動は重要となります。いろんな機会を捉え多方面からの情報収集に努め手術室看護につなげています。

患者さんは麻酔がかかった状態で手術治療を受けられますが、手術を受けることへの不安は計り知れないものがあります。患者さんの不安な気持ちを少しでも取り除き、安心して手術に望んでいただけるように努めています。歯科病院の目標である「医療の質の向上・患者サービスの向上」を基に安全な医療環境の提供と、手術室看護の充実・質の向上を目指します。

(看護部 主任 布川 桂子)

昭和大学歯科病院口腔外科では、顎変形症(顎が変形し受け口や顔面の非対称な患者さま)やインプラント(人工歯根)の埋め込みや、骨の量が足りず骨造成(インプラントを埋める骨を作ること)が必要な患者さんの手術において、骨の高さや幅などの形状を正確に把握するために、3次元模型によるシミュレーションを行っています。即ち患者さん自身の顎の形状を通常のCTにて撮影して得られる画像情報から、特殊な機械を使って立体的で患者さんの顎の骨を同じ形、同じ大きさのものを3次元の模型として作ります。その患者さんの顎の骨と同じ模型上で、様々な手術を3次元的にシミュレーションすることで、正確で、安全確実な手術を実現しています。

例えば、今までの顎変形症の手術では、2次元画像であるX線画像(レントゲン画像)のみを参考に、医師の経験に基づいて手術をする場合が多く、難しい症例では術中にいろいろな判断が必要な場合があります。これに対し、現在では、3次元画像であるコンピュータ断層撮影(CT)画像を基に3次元模型を作成し、患者さんの顎の状態を反映した模型を用いて、どのような手術をするか、どのような問題が生じる可能性があるのか、などを術者が実際の手術の前にシミュレーションすることができます。また、シミュレーションの結果を患者さんに見せながら、説明することができ、患者さんも手術後どのようになるかを十分理解して、手術を受けることができます。すでに、実際の多くの手術に適用しており、極めて良好な結果を得ています。

インプラント治療においても、3次元CT上で埋入部



図. 3次元模型による患者さん各々の顎骨の形状の再現

位をコンピュータ上で、シミュレーションします。これはほぼ全例に行い、安全なインプラント埋入に役立っています。また、インプラントを埋めるための骨の量が少

ないなど、骨の造成が必要な場合には、模型を作製して必要な骨をどれくらいの量を、どこに作ってあげばよいのかを模型上でシミュレーションし、安全で確実な手術に役立てています。

このように、視覚的にみるだけではなく、実際の手術

#### インプラント埋入シミュレーション

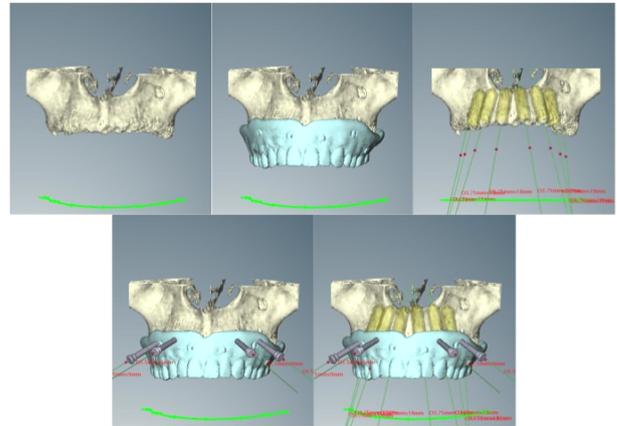


図. インプラント埋入におけるシミュレーション:使用中の入れ歯との関係のもとにコンピュータガイドで安全なインプラントの埋入が行われる。

と同様に顎の骨を触り、具体的な顎の削除部位や骨片の移動をシミュレーションできるので、より安全でより確実な手術が行えるようになっており、手術時間の短縮など患者さんに低侵襲な患者さんにやさしい治療が実現されています。これは歯科用インプラントの埋め込み手術でも同様で、術者はより安全で確実な手術を行うことが出来、また患者さんもより治療による侵襲が少なく、安心して治療に臨むことができることと思います。



図. 顎変形症手術におけるシミュレーションの1例、その角度で顎を移動させるかをシミュレーションすることで、手術時間の短縮も図られ、患者さんにやさしい治療が行える。

# 「暮らしと健康」

— 健康と若さは口元から 第13回 —

昭和大学歯科病院公開講座 後援／大田区

昭和大学歯科病院では、皆様にお口の健康を保つのに役立てていただくため公開講座を開催することにいたしました。皆様のご参加をお待ちしております。

## 講演内容

### 1 「アンチエイジングは口元から」

講師：真鍋 厚史(昭和大学歯学部教授／美容歯科)

### 2 「お口の健康を保つには」

講師：柴田 由美(昭和大学歯科病院歯科衛生士)

※ 講演終了後、お口の機能向上と維持のための健口体操をご指導致します。

日時：平成22年7月10日(土) 13:00～15:00

場所：昭和大学歯科病院 1号棟6階臨床講堂

大田区北千束2丁目1番1号

受講予定人数：100名

受講料：無料

受講申込：昭和大学歯科病院管理課公開講座担当まで、下記いずれかの方法にてお申込下さい。

◎ 電話 03-3787-1151 内線200(月～金 9:00～17:00)

◎ FAX 03-5702-0546

お申込の際の必要事項は、氏名(代表者)、参加人数、連絡先 となります。



写真は、昨年度の様子です

## 編集後記

サッカーワールドカップがいよいよ開催しました。日本チームとしてはワールドカップ史上初めての初戦勝利、そして初めての海外での勝利でスタートしました。寝不足の日々が続きますが、おつまみを食べながら観戦される方はくれぐれもそのまま寝ないで下さいね。お口に残った食べカスは恐怖のオウンゴールのように寝ている間にう蝕と歯周病を進行させます。

ハブラシ片手にサムライジャパンを心ゆくまで応援しましょう。ガンバレ 日本！！

(K.T)

